Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-07-08

地域史講座「歴楽」の取り組みについて

山内, 順子

(Citation)
歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集,16:6-10

(Issue Date)
2018-01-28

(Resource Type)
conference object

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81010233

地域史講座「歴楽」の取り組みについて

丹波市　竹田地区歴史資料室　山内順子

はじめに

丹波市域では、丹波市合併前にあった六つの町のうち、柏原、氷上、市島という三つの町に「郷土史研究会」がありそれぞれ活発に調査や発表をしていたり、また、兵庫県の施設である丹波の森公苑においても「丹波学講座」（有料）が開催されたり、或いは神戸大学との連携による市教育員会主催の講座も開かれたりしている。参加者も少なくなく、地域の歴史について関心は決して薄くはない地域であると思う。

ただ、これまでの講座では

・テーマが偏っている（何故か地域の戦国武将がとりあげられることが多い）
・講師が一方的に話すだけである
・著名な講師ではあるが地元に深く入り込むことがないままの講演である
・配布される資料が白黒印刷の上内容や体裁にバラつきがある
・参加者がある程度固定している

などの課題があった。

これらの課題を少しでもクリアできるような講座を開いてみたい、と松下正和先生にご相談すると同時に、三つの郷土史研究会にも声かけをしたところ、今年度は「市島町」と「柏原町」で取り組んでみようということになった。

「歴史カフェ」の発想

実際に講座を開くにあたって発想のモデルとしたのは「サイエンスカフェ」である。

「サイエンスカフェ」とは周知の通り―特定のカフェの名称ではなく―「カフェのような雰囲気の中で科学を語り合う場」である。1997～1998 年にかけて、イギリスとフランスで同時発生的に行われたのが起源とされ、日本では 2004 年に京都市で開催されたのが最初とされる。

というのも、筆者自身が参加して、良い意味で衝撃を受けたからである。

参加したのは 2015 年にコウノトリの郷公園が主催したもので、豊岡市のカフェで開かれた。郷公園の研究者が、繁殖や放鳥後の実態や課題などをカフェの白い壁に資料を映写しながら語った。それに対して、周辺で米を栽培している農業者や、観光業者、バードウオッチングが趣味の中学生と家族、コウノトリ以外の絶滅危惧種の研究者、そして私のような地域史に興味のある者、など多彩な参加者がそれぞれの立場で質問をしたり討議をしたりした。「カフェという場の雰囲気が科学への敷居を低くする」「知識においては対等ではないが敬意においては対等の関係で議論する」を実感したひと時であった。

これを何とか地域史の分野でも実践できないか、という思いが原点である。

地域の歴史を楽しむ、気楽な雰囲気で語りあう…という意味をこめて「歴楽」という名前にしたのも、この思いからである。

実施への準備

〇場所

前述の通り「市島町」と「柏原町」での実施が決まったが、主体となったのは「竹田地区自治振興会（市島町）」「柏原自治協議会（柏原町）」という組織である。これらは、いくつかの自治会が集まった（基本的には同じ小学校に通う地域）組織で、独自の予算、行事を企画する権限、事務を担当する人員、「コミュニティセンター」や「自治会館」という建物を所有している。

従って、場所はこれらのセンターや会議室を使わせていただくことが可能となった。

特に、市島町の竹田自治振興会の「竹田コミュニティセンター」には「歴史資料室」が以前から設置されており、その部屋と隣接する会議室を活用してほしいとの要望があった。（私の肩書が「竹田歴史資料室研究員」となっているのは、この関係である。）

〇予算

自治振興会・自治協議会の予算から会議室使用料や講師謝礼などを賄っていただけることとなった。竹田地区での実施にあたっては、丹波市の補助金（―市へのプレゼンテーション後の承認、年間 10 万円上限）を受けることができた。

また、参加者から参加料を徴収することとした。これについては、当初は「有名な講師の講演でもないのに、有料として参加者があるのか（例えば丹波学講座では 5 回五千円を徴収するが講師の一人は大河ドラマの考証で有名な先生である）」といった抵抗や批判もあったが、カフェ（お茶やお菓子）の実費や資料印刷代としてということで、竹田地区では 1 回 500 円、柏原地区では 1 回 300 円をいただくことに決定した。

〇テーマと講師

「竹田地区」では、その地区内に特化した史料や話題について取り上げてほしいとの要望であった。前述の「歴史資料室」には個人では保存の難しくなった資料・史料が保管されており、それらを資料室研究員として探求した成果を中心に「話題を提供する」という形で発表してほしいとのことで、筆者が「ナビゲーター」として担当することとなった。また、年間 10 回のうち 2 回は児童向けの講座を実施することとした。

「柏原地区」では、地区を越えた、丹波市域全体や旧丹波国全体に及ぶような内容を希望された。また、観光客が多く、交換留学等も盛んな地域であることから、外国語で地域史を語れる講座および資料の要望があった。年間 6 回のうち、初回は松下正和先生にお願いし、以降は、在野の研究者で、それぞれ独自の探究をされているかたに依頼した。

〇配布資料

ビジュアルとして魅力的で、通常は地域史や地域の文化財に特に興味がない人でも手に取りやすい資料を作成するために、ネットプリント業者を活用し、カラー印刷をすることとした。

原稿は筆者が作製（柏原地区の場合は講師が資料提供や監修）、松下正和先生に指導・校正をお願いし、内容について一定の次元を保つよう努めることとした。

活動の実態

○歴楽 TAKEDA　竹田地区自治振興会での活動

第１回　5 月 12 日（土）　石像寺の雲版・半鐘と丹波の鋳物師　→供出を免れた青銅器

第２回　6 月 17 日（土）　清薗寺の絵馬　→絵の解題、旱魃・洪水の災害史

第３回　9 月 16 日（土）　一宮神社の龍　→神社文書、彫刻師の文書と彫刻の対照

第４回 10 月 28 日（土）　石像寺の瓦製香炉と瓦製獅子狛犬　→鬼師の存在と交流

第５回 11 月 25 日（土）　伊都伎神社の獅子狛犬　→宮講の実態と解散、出征者名簿

第６回 12 月 16 日（土）　萩原家が運んだ京の香り→下賜された布と公卿領主支配

第７回　1 月 27 日（土）　土田和泉守の鎧と兜　→室町後期の鎧兜と先祖祀り

第８回　2 月 17 日（土）　『大野唯四郎日記』を読む　→幕末～明治の児童福祉

歴楽 *TAKEDA*

平成 29 年 5 月号

石像寺の雲版と半鐘

歴楽 *TAKEDA*

平成 29 年 6 月号

清薗寺の絵馬

歴楽 *TAKEDA*

平成 29 年 9 月号

一宮神社の龍

歴楽 *TAKEDA*

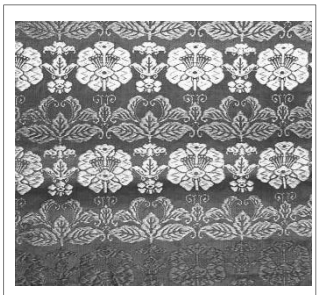
平成 29 年 10 月号

石像寺の瓦製香炉

歴楽 *TAKEDA*

平成 29 年 11 月号

伊都伎神社の獅子狛犬



歴楽 *TAKEDA*

平成 29 年 12 月号

萩原家が伝えた京の香り

※参加者数（第１回～6 回まで）　1 講座あたり平均 39 人

提供する「お菓子」については、市島町に関連のあるお店や商品を提供、紹介

例：第１回地元洋菓子店の焼き菓子、第４回寺名入り瓦せんべい、第５回地元農園製干柿など

歴楽 kids　（児童向け夏休み講座）

地区の小学校に協力を依頼して受講者募集、自由研究として発表

6 年生 3 名（全 31 人中）、7 月 22 日現地調査～4 回の討議を経て 8 月 19 日資料完成

歴楽 *kids*　夏休み活動報告

伊都伎神社と周辺を探検したよ！

●7 月 22 日　オリジナルテキストによる解説を聞いたあと、実際に伊都伎神社と周辺を探検

●7 月 26 日と 8 月 2 日　竹田歴史資料室にて疑問や課題を持ち寄り、文献や資料の調査

皆で話し合ったり調べたりするうちに、三名それぞれの興味がしぼられていきました。文献の中には、高度な研究書や神社の古文書も含まれていましたが、熱心に読みこみました。

●8 月 9 日　　再び伊都伎神社を訪問、まとめるために必要な写真やデータを収集く

●8 月 16 日　写真や文の配置の検討をしながら模造紙に下書き

●8 月 19 日　自由研究の仕上げ

仕上げにあたっては、神戸大学地域連携センターの先生がたにも見ていただき、講評をいただきました

○歴楽 TAMBA　柏原自治協議会での活動

第１回	５月 19 日（金）	古文献や錦絵にみる丹波地域の特産品	松下正和先生
第２回	７月 21 日（金）	丹波にオオカミが居た頃―狼信仰と狼型狛犬―	山内順子
第３回	９月 22 日（金）	おもてなしEnglish in TAMBA	久下ゆか子
第４回	11 月 17 日（金）	社寺彫刻で巡る丹波	白石雅之
第５回	１月 19 日（金）	丹波地域の美しい石垣	井上正直
第６回	３月 16 日（金）	大正昭和の洋風建築―市役所柏原支所を中心に―	内藤正克

歴楽 *TAMBA*

平成 29 年５月号

古文献・錦絵に見る丹波の特産品

歴楽 *TAMBA*

平成 29 年７月号

丹波の狼信仰と狼型狛犬

歴楽 *TAMBA*

平成 30 年１月号

丹波地域の多彩で美しい石垣

※参加者数（1～4 回まで　1 講座あたり平均 31 人）

活動の成果

・お茶とお菓子後のフリートークの時間に、参加者が関連の話をすることが増えた

・講座終了後日にも情報が寄せられるようになった

例：半鐘や鰐口について多くの情報が集まり、小型青銅製品は供出を逃れた事実がわかってきた

・参加者の幅が広がった

年代：10 代～80 代　地域：丹波市域全域～福知山市、篠山市

・講座当日だけでなく、発表の場所や機会が広がった

地域の文化祭　神社の祭礼（例：一宮神社の竹田祭に「一宮神社の龍」パネル展示）

・当日参加できなかったかたを中心に、資料を後日も購入していただくことができた

12 月末まで　歴楽 *TAKEDA*　資料　91 冊

・特に英語資料については留学生受け入れ家庭やＡＬＴ、観光協会の反応が大きかった

今後の課題

・参加者が多いことがありがたい一方、「カフェ」の雰囲気を作れているか検討する

・活動を広げていく（少なくとも市域全体で開催）

・市や公共団体、大学との連携をより深める

・ネットを活用して情報配信をしてゆく